

出雲かんべの里ホームページ登載のことなど

酒井 董美^{ただよし}

11年前の2009年(平成21年)1月から出雲かんべの里のホームページに登載の始まった島根のわらべ歌が、現在のところ49曲(出雲16曲、石見17曲、隠岐16曲)ばかり登載されており、残り41曲を加えると90曲(三地区各30曲)になり、鳥取県の県立博物館登載の「鳥取のわらべ歌」90曲(東部、中部、西部各30曲)に並ぶ。今のようには毎月3曲ずつ登載を続ければ、90曲になるのは、16ヶ月先なので、来年11月完了ということになる。これedyouやく鳥取県と肩を並べることになるのである。



出雲かんべの里民話館(松江市大庭町)

を登載済みであり、鳥取県立博物館の場合も、かなり以前に90話(各地区30話)の登載は完了している。

ところで、これらの登載をクリックすることで、収録時の語りや歌い手の声が聞こえるのであるから、単なる文字資料とは異なり、話や歌の雰囲気も分かり、実に貴重である。筆者は講演などで頼まれれば、講演レジメに必ずQRコードをつけて、講演後レジメを持ち帰った方が、スマホなどで、QRコードを読み取って、民話の語りやわらべ歌のメロディーを楽しんでもらえるようにしているのである。一昨日の12日には、米子市立住吉公民館で「八百比丘尼について」の講演を行ったが、そのレジメにはもちろん鳥取県立博物館のホームページから米子市彦名の河場敏雄さん(大正15年生)の八百比丘尼伝説を、出雲かんべの里のホームページから類話である浜田市下府町の曾根辻清一さん(大正6年生)の語る千年比丘尼をQRコード付きで紹介しておいた。

ホームページに登載することによって、不特定多数の人々がその話や歌を聴き感動する。最近の事例のいくつかを述べれば、まず6月25日に神奈川県公益社団法人日本外国特派員協会に属する株式会社SELICの統括マネージャー石川千秋さんが、出雲かんべの里へ、「外国語に民話を翻訳して冊子にしたい」と相談に見えて話し合った。また同月27日には島根県立大学短期大学松江キャンパスで「わらべ歌あれこれ」の話が聞きたいとのことから、渡邊寛智准教授の指導する保育学科の7名の学生を対象に1コマ分に相当するスピーチを行い喜ばれた。

文明の進化はなかなかすばらしいものがある。半世紀前に収録していたころには考えられもしない仕組みが出現するものである、これから先どんな変化が起きるか分からないが、私たちは積極的にそれらを活用して生活に役立てていきたいと思うのである。